レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2026年 4月 1日

中国生コンクリート株式会社
〒725-0003　広島県竹原市新庄町62番地の3
TEL:(0846)29-0041
配合計画者名

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月21日～6月20日、9月21日～11月30日　左記以外の期間については備考欄に記載。(標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項(任意)	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	－	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	－%
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－cm
	空気量	－%		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－

混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq %	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	高炉ｽﾗｸﾞ	福山市鋼管町1	－	－	5以下	2.55	－	2.76	3.0±2.0
	②	砕砂	東広島市黒瀬町小多田	A	モルタルバー法	5以下	3.00	－	2.57	3.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	②	砕石2005	新津久見鉱山	A	化学法	20- 5	6.60	－	2.71	2.0±1.0
	③	砕石4020	三原市大畑町	A	化学法	40-20	8.00	－	2.63	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	ｼｰｶ ﾋﾞｽｺﾌﾛｰ150 Rsure	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq % 0.6
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ %	水の種類	地下水・上澄水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ %
回収骨材の使用方法	細骨材 －	粗骨材 －		ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
277	－	－	158	331	463	－	－	661	426	－	2.77	－	－

水セメント比	57.0 %	水結合材比	－ %	細骨材率	42.5 %

備考　骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。

骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②	40.0:60.0
	粗骨材②:③	60.0:40.0

修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更することとする。
夏期　6月21日～9月20日：+20%、冬期　12月1日～3月20日：-10%

配合計算書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項					

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 10.0 %

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.250$$

$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 24 = 30.0\ N/mm^2$

よって　$m = 30.0\ N/mm^2$

(3)水セメント比(W/C)　$m = -18.4 + 27.6 \times C/W$

$W/C = 27.6 \div (30.0 + 18.4) \times 100 = 57.0\ \%$

$W/C = 57.0\ \%$

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 158 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　$C = W \div (W/C) \times 100 = 158 \div 57.0 \times 100 = 277$ kg/m³

$Cv = C \div$ 密度 $= 277 \div 3.04 = 91$ L/m³

(6)空気量(A)　$A = 4.5\ \% \times 1000 = 45$ L/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.655 m³/m³　実積率 = 62.0 %

$Gv = 0.655 \times 1000 \times 62.0 \div 100 = 406$ L/m³

$G1v = Gv \times 60.0\ \% = 244$ L/m³　$G1 = G1v \times$表乾密度 $= 244 \times 2.71 = 661$ kg/m³

$G2v = Gv \times 40.0\ \% = 162$ L/m³　$G2 = G2v \times$表乾密度 $= 162 \times 2.63 = 426$ kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　$Sv = 1000 - (W + Cv + Gv + A) = 1000 - 700 = 300$ L/m³

$S1v = Sv \times 40.0\ \% = 120$ L/m³　$S1 = S1v \times$表乾密度 $= 120 \times 2.76 = 331$ kg/m³

$S2v = Sv \times 60.0\ \% = 180$ L/m³　$S2 = S2v \times$表乾密度 $= 180 \times 2.57 = 463$ kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　$s/a = Sv \div (Gv + Sv) \times 100 = 42.5\ \%$

(10)単位混和剤量(Ad)　$Ad = C \times$ 添加率 $= 277 \times 1.000\ \% = 2.77$ kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
277	−	−	158	331	463	−	−	661	426	−	2.77	−	−

水セメント比	57.0 %	細骨材率	42.5 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②	40.0:60.0
					粗骨材②:③	60.0:40.0

備考